

MICRO CADAM Helix

ヒント集

2020年6月版

MICRO CADAM Helix を利用するにあたって、作図効率アップにつながる便利な機能をまとめてみました。

1. 自分好みにメニューをカスタマイズするには？
2. 子図を上手に使うコツは？
3. 同じような操作の流れを手早く実行するには？
4. 表示関連の便利機能は？
5. その他お勧めの便利機能は？

1. 自分好みにメニューをカスタマイズするには？

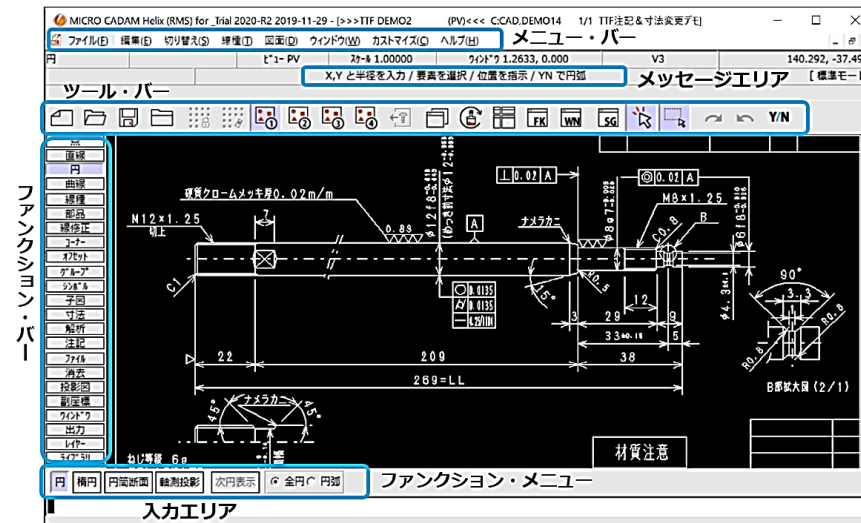
- 1) ツール・バー表示の設定方法
- 2) ツール・バーのカスタマイズ
- 3) ショートカット・キーのカスタマイズ

1. 自分好みにメニューをカスタマイズするには ?

頻繁に使用するコマンドをすぐ使えるようにボタン配置できませんか？
メニューの位置も設計者によって好みで上側や左側などに変更したい！



MICRO CADAM Helix メイン・ウィンドウの「ファンクション・バー」や「ツール・バー」、「ファンクション・メニュー」などは変更が可能です。また、「ツール・バー」には、メニュー・バーのメニューの中で使用する頻度が高い機能を、それぞれボタンに割り当てて使うことができます。ここでは、画面表示の変更方法、ツール・バーのカスタマイズ方法、ショートカットキーの設定方法をご紹介します。

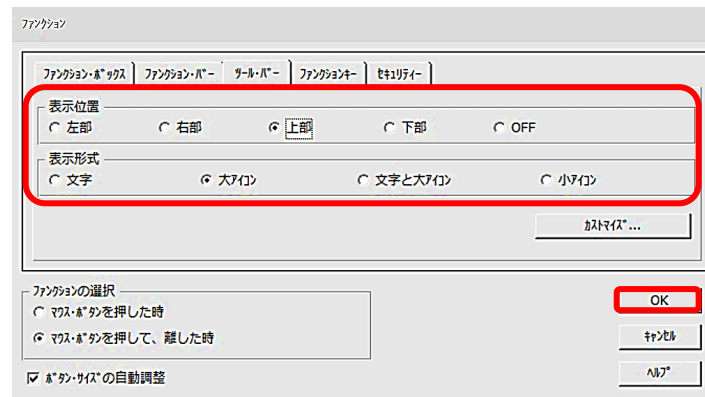


1) ツール・バー表示の設定方法

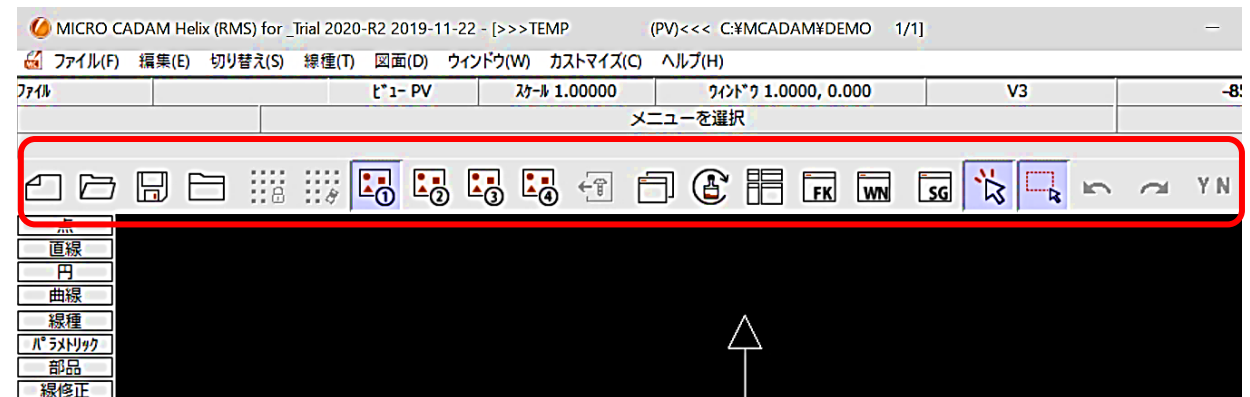
MICRO CADAM Helix では、使用頻度の高いメニューをツール・バーに表示することができます。よく使うメニューを1クリックで実行できるため、とても便利です。

<ツール・バー表示の設定方法>

1. メニュー・バー「カスタマイズ」→「ファンクション」を実行
2. ツール・バーのタブで「表示位置」「表示形式」を選択し「OK」を選択



表示位置、表示形式の指定が可能です



指定箇所にツール・バーが表示されます

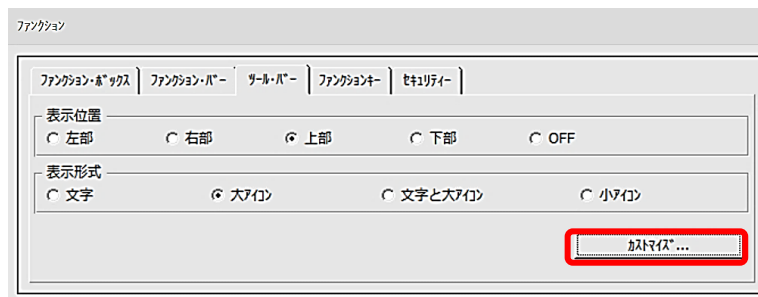
ツール・バーだけでなく「ファンクション・ボックス」や「ファンクション・バー」等も表示位置、表示形式（文字・アイコン等）を設定することができます。

2) ツール・バーのカスタマイズ (チュートリアル追加)

ツール・バーに表示するコマンドを自分好みにカスタマイズすることができます。
ここでは「チュートリアル」を追加する方法をご説明します。

<設定方法>

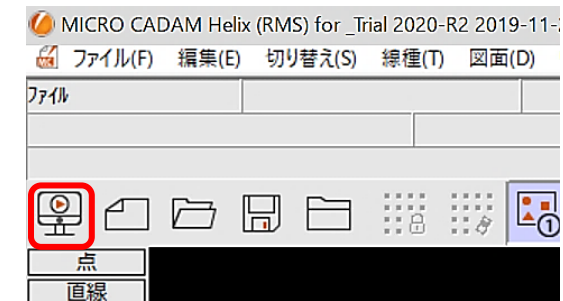
1. メニュー・バー「カスタマイズ」→「ファンクション」を選択
2. ツール・バーのタブで「カスタマイズ」を選択
3. メニュー・バーのタブでプルダウンメニューから「ヘルプ」を選択
4. 「チュートリアル」を選択
5. 「追加」
6. ツール・バーダイアログの「OK」を選択
7. ファンクションダイアログの「OK」を選択



ツール・バーのタブを開き、
「カスタマイズ」を選択します



チュートリアルを選択し、
ツール・バーに追加します



チュートリアルアイコンが
ツール・バーに追加されます

3) ショートカット・キーのカスタマイズ

キーボードのショートカット・キー（Ctrlキーと英字キーの同時押し）によるファンクション、メニュー・バー、ユーザー定義ボタンの割り付け、およびルート・メニュー選択機能の割り付けが行えます。よく使用するファンクションやメニューなどを登録しておくことで、作図効率の向上が期待できます。

<ショートカット・キーの設定方法>

1. メニュー・バー「カスタマイズ」→「キーボード」を選択
2. 「キーボードの設定」ダイアログ・ボックスで各ショートカット・キーにファンクションなどを割り付け



ショートカット・キーの設定画面

2. 子図を上手に使うコツは？

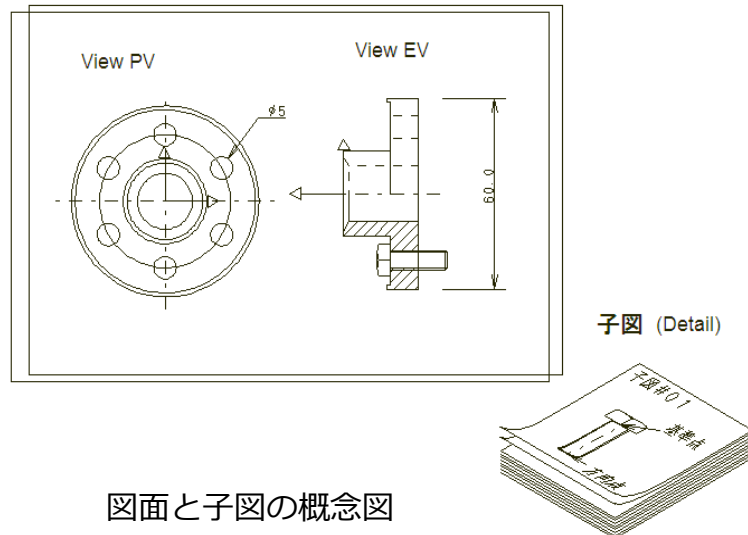
- 1) ビュー上での子図編集
- 2) 子図の再配置
- 3) 子図モードでのDXF/DWG変換
- 4) 未使用子図の消去

2. 子図を上手に使うコツは ?

MICRO CADAM Helix の子図機能をよく使っているのですが、子図の上手な使い方や、あまり知られていない便利な機能があったら教えてください。



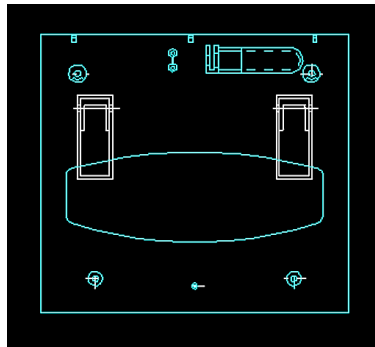
子図機能をご利用いただきありがとうございます。
作図効率の向上が期待できる子図機能ですが、さらに便利にご利用いただけるよう子図関連についても継続した機能拡張を実施しております。
ここでは子図関連の便利な機能をご紹介します。



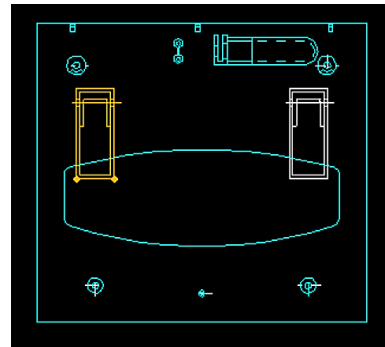
ビューと子図を切り替えることなく、直接ビュー上で他の要素との関連を確認しながら配置子図を編集することができる機能です。

<操作方法>

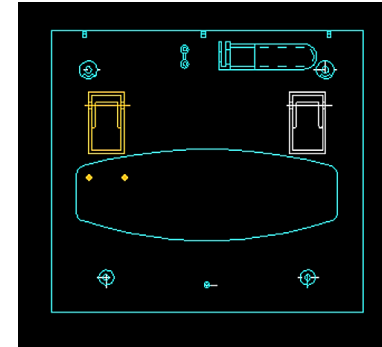
1. 子図が配置された図面を開く、または図面に子図を配置する
2. ファンクション<子図> → 【子図編集】を選択
3. ビュー上の子図を選択（子図の色が変わり子図編集モードになります。）
4. 子図の編集が完了したら、ファンクション<子図>の【編集終了】で子図編集モードを終了



配置された子図を選択します



選択された子図の色が変わり
子図編集モードに入ります



ビュー上の要素を参照しながら
子図編集が可能です

上記操作方は、YouTubeのMICRO CADAM Helix ページに動画を公開しています！

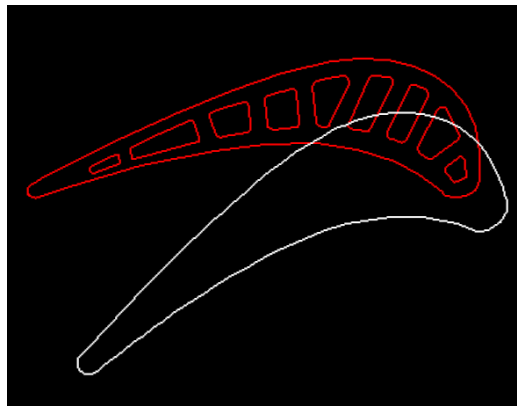
「Tipsシリーズ：ビュー上での配置子図編集」 <http://youtu.be/kLjUxU82yk> 

2) 子図の再配置

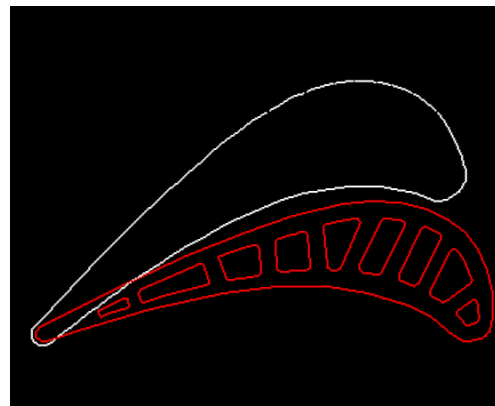
一度配置した子図を再配置することができる機能です。
設計作業の進捗に合わせた微調整や他の要素の変更に合わせた再配置が可能です。

<操作方法>

1. ファンクション<子図> → 【再配置】を選択
2. 再配置したい子図を選択（子図の色が変わり、再配置可能な状態になります。）
3. 再配置したい位置を選択（指示）
4. Y/Nで方向を指定（角度を入力）



再配置したい子図を選択します
(子図の色が変わります)



再配置する位置を指定します



角度指定を行い、再配置完了です

上記操作方は、YouTubeのMICRO CADAM Helix ページに動画を公開しています！

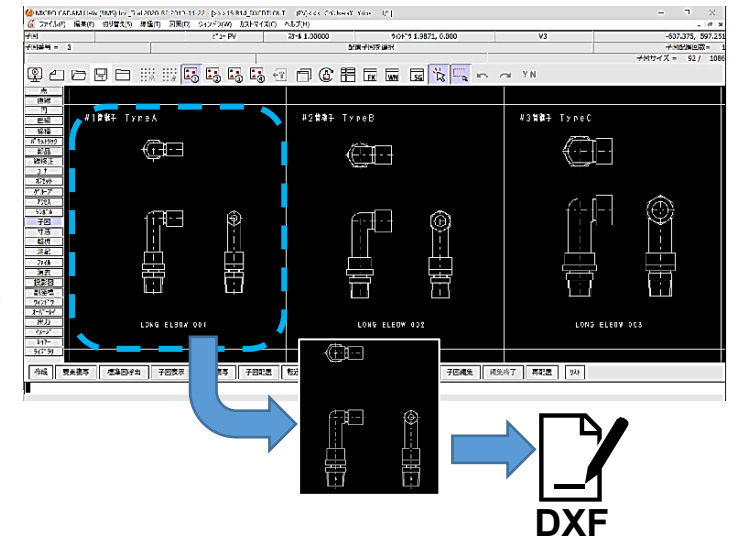
「Tipsシリーズ：配置子図修正とグループ化」 <http://youtu.be/AlhtXD33mPs>

3) 子図モードでのDXF/DWG変換

DXF/DWG変換機能が子図モードで利用できるようになりました。
取引先へ子図のみをDXFファイルで提供したり、提供されたDXFファイルをMICRO CADAM Helix の子図に取り込むなど、効率的なデータ交換が可能です。

<操作方法 - 1 : MC → DXF変換>

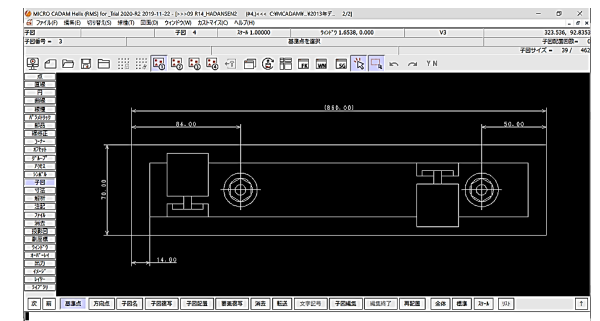
1. DXFファイルに変換したい子図を開く
2. メニュー・バー「ファイル」→「DXF形式変換」→「MC→DXF変換」を選択
3. ファイル名、パラメーターを設定して「OK」を選択



子図のみをDXFファイルに変換します

<操作方法 - 2 : DXF → MC変換>

1. DXFファイルを取り込む先の子図を開く（または新規作成）
2. メニュー・バー「ファイル」→「DXF形式変換」→「DXF→MC変換」を選択
3. 対象のDXFファイルを指定し、パラメーターを設定して「OK」を選択



子図にDXFファイルを取り込みます

4) 未使用子図の消去

子図消去の機能で、未使用子図の消去が可能になりました。(一括消去、またはリストからの選択消去)
 図面の授受において、配置子図として使用されていない子図(未使用子図)が多数ある場合などに、データを軽減することができます。

<操作方法>

一括消去したい場合

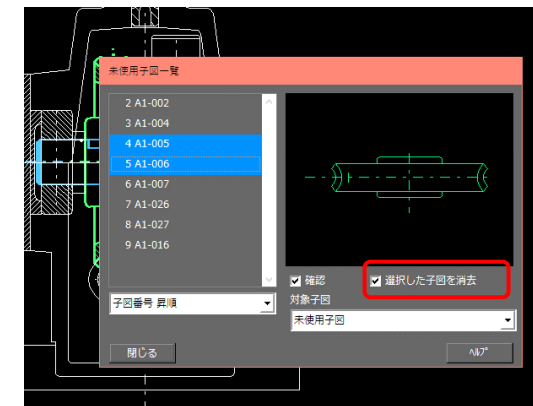
1. ファンクション<子図> → 【子図消去】を選択
2. Y/Nで未使用子図を全て消去
3. 「OK」を選択



子図消去を選択 Y/Nで一括消去します

選択消去したい場合

1. 【リスト】を選択
2. 選択した子図を消去にチェックを入れ、消去したい子図を選択(複数可)、「閉じる」を選択
3. Y/Nで選択した未使用子図を消去
4. 「OK」を選択



リストから消去したい未使用子図を選択し、消去します

上記操作方は、YouTubeのMICRO CADAM Helix ページに動画を公開しています！

「MCHelix2014シリーズ：子図管理機能の拡張」 <https://youtu.be/LZ6FyLCI74w>

3. 同じような操作の流れを手早く実行するには？

- 1) イベントスタック・ファイルの作成
- 2) イベントスタック利用例：要素のグループ化
- 3) ユーザー定義ボタンへの割り当て
- 4) イベントスタック：その他の利用例

3. 同じような操作の流れを手早く実行するには

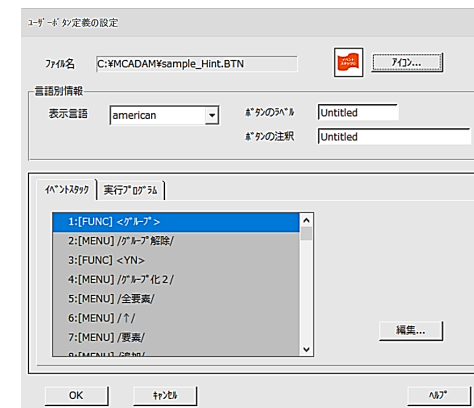
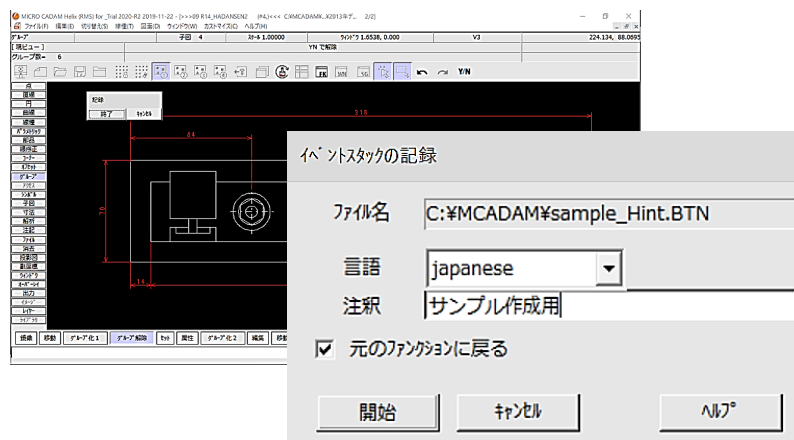
設計作業時に頻繁に使用するコマンドがあるのですが、その度にファンクション、各メニューを選択しなければなりません。
複数操作を一度に実行するマクロのような機能はありませんか？



イベントスタック機能をぜひご利用ください！

使用頻度の高い操作をイベントスタック・ファイル（マクロ）に登録しておき、次回以降はそのファイルを実行するだけで登録した操作が実行できます。

ここでは基本であるイベントスタック・ファイルの作成方法と、利用例として「要素をグループ化するイベントスタック・ファイル」の作成方法、さらに便利な使い方として「イベントスタック・ファイルのユーザー定義アイコンへの割付方法」をご紹介します。



1) イベントスタック・ファイルの作成

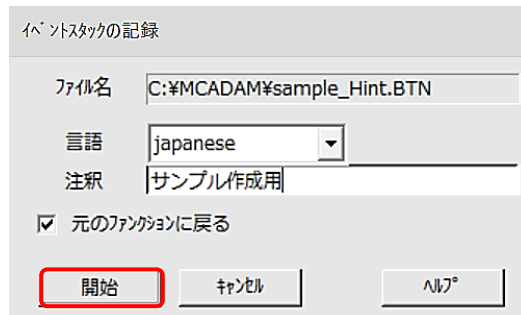
一連の操作手順を「イベントスタック・ファイル」として記録することができます。

<設定方法>

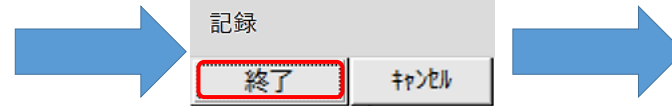
1. メニュー・バー「カスタマイズ」 → 「イベントスタック」 → 「記録」を選択
2. イベントスタックのファイル名（任意）を設定、「保存」を選択
3. 必要に応じて言語/注釈を設定、「開始」を選択（以降の操作が記録されます。）
4. 記録する操作が終了したら、「終了」を選択

<実行方法>

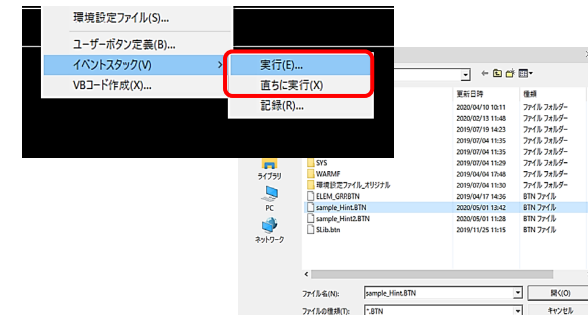
1. メニュー・バー「カスタマイズ」 → 「イベントスタック」 → 「実行」または「直ちに実行」を選択



イベントスタックのファイル名を設定し、記録を開始します



操作が終わったら「終了」ボタンを押します



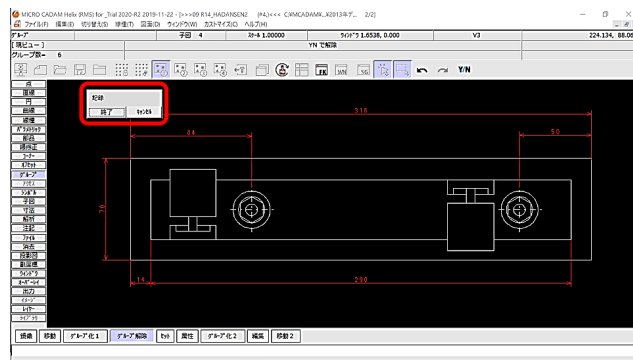
作成したイベントスタックのファイルを実行します

2) イベントスタック利用例：要素のグループ化

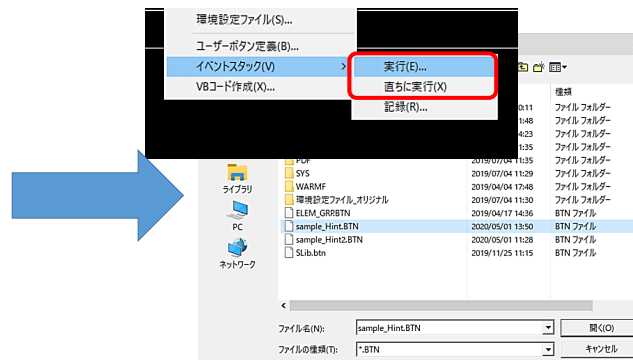
ここではイベントスタックの作成例として「寸法要素をグループ化する」というイベントスタックの作成手順をご紹介します。このイベントスタック・ファイルを使うと、要素を簡単にグループ化することができ、寸法文字高を一括で変更したい場合などに有効にご利用いただけます。

<操作方法>

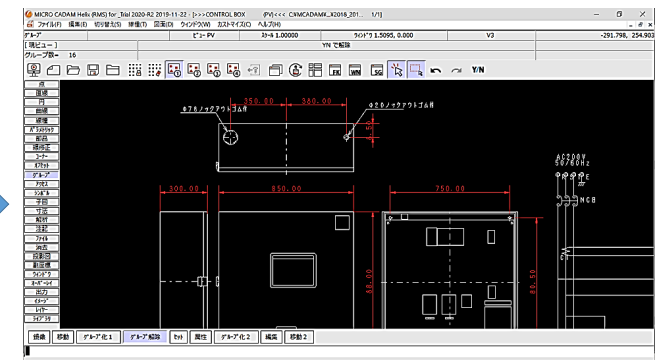
1. 寸法要素がある図面を用意
2. イベントスタックのファイル名を設定し、「開始」を選択
3. ファンクション<グループ> → 【グループ化2】 → 【要素】を選択し、「◎全ビュー」を選択
4. 任意の寸法要素を選択し、Y/Nでグループ化
5. イベントスタックの「終了」を選択（ここまでの操作がイベントスタック・ファイルに記録されます。）
6. メニュー・バー「カスタマイズ」 → 「イベントスタック」 → 「実行」または「直ちに実行」で作成したイベントスタック・ファイルを実行（要素を選択するとグループ化できます。）



記録を「開始」、要素をグループ化後、記録を「終了」します



作成したイベントスタックのファイルを実行します



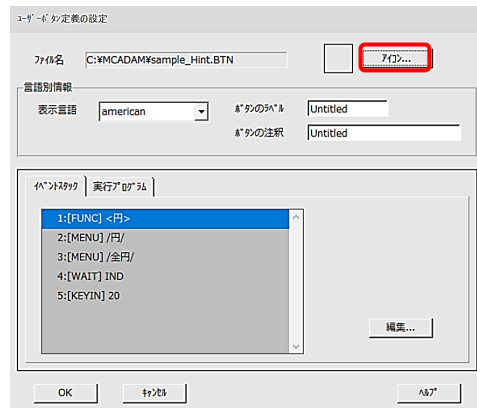
実行後は、要素を選択するのみで簡単にグループ化が可能です

3) ユーザー定義ボタンへの割り当て (1/2)

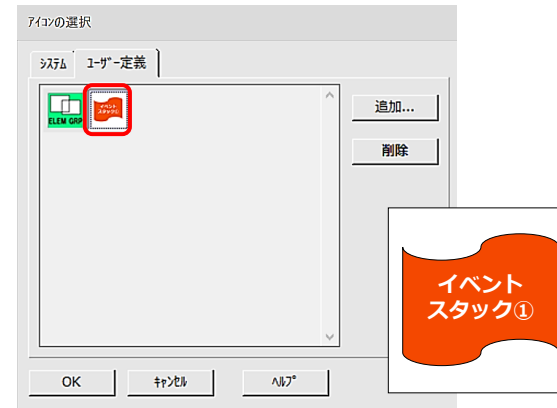
作成したイベントスタック・ファイルをユーザー定義ボタンに割り当てておくと、他のコマンド同様にツール・バーに表示して実行することもできます。

<操作方法>

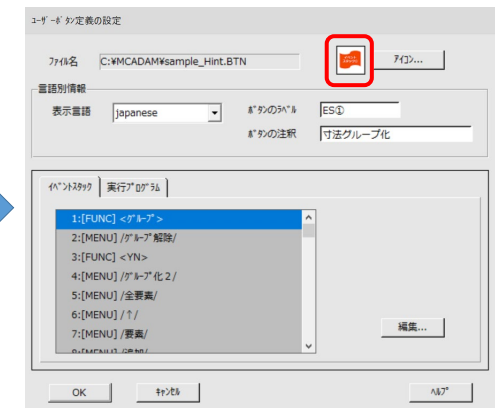
1. メニュー・バー「カスタマイズ」→「ユーザーボタン定義」を選択
2. イベントスタック・ファイルを選択
3. 「アイコン」を選択し、システムタブまたはユーザー定義タブからアイコンを選択
※ユーザー定義タブから選択する場合はあらかじめアイコンファイルを用意しておく必要があります。
4. 「ユーザーボタン定義の設定」ダイアログに戻り、「OK」を選択



ユーザーボタン定義の設定ダイアログの「アイコン」を選択します



アイコンの選択ダイアログの[ユーザー定義]タブを開き、作成しておいたアイコンを選択します



イベントスタック・ファイルにアイコンが設定されます

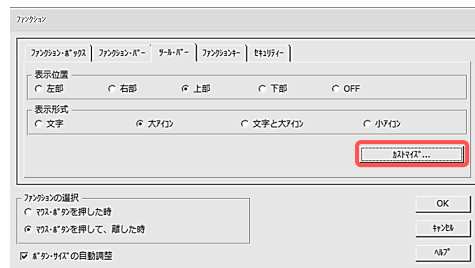
※ ツール・バーへの表示は次頁でご紹介しています。

3) ユーザー定義ボタンへの割り当て (2/2)

イベントスタック・ファイルに割り当てられたアイコンを画面上のボタンとして表示するように設定します。
この設定をすることで画面上のアイコンからイベントスタック・ファイルを実行することができますので、
同じような操作を繰り返す場合などに効果的です。

<操作方法>

1. メニュー・バー「カスタマイズ」→「ファンクション」を選択
2. ファンクションの設定ダイアログの「カスタマイズ」を選択
3. 「ツール・バーの設定」ダイアログの「ユーザー定義」タブで、イベントスタック・ファイルを指定
4. [追加] ボタンでツール・バーにアイコンを追加



ファンクション設定ダイアログから「カスタマイズ」を選択します



「ユーザー定義」タブでイベントスタック・ファイルを指定し、「追加」します



ツール・バーにアイコンが追加されます

上記操作方法は、YouTubeのMICRO CADAM Helix ページに動画を公開しています！

「MCHelix2014シリーズ：カスタマイズ機能拡張」 <https://youtu.be/4Gmoi1Xia3Y> 



その他にもイベントスタックの便利な使い方をYouTubeに公開中 !!
ぜひ一度ご参照ください !!

- **AUX VIEWのVIEW統合化**

複数のVIEWがある図面を単一VIEWの図面に変更するイベントスタックを作成する手順

⇒ <https://youtu.be/VEDjgknqEV8>

- **分割点の作成**

N分割の分割点を作成するイベントスタックを登録/編集する手順

⇒ <https://youtu.be/fWTqiqal4jU>

4. 表示関連の便利機能は？

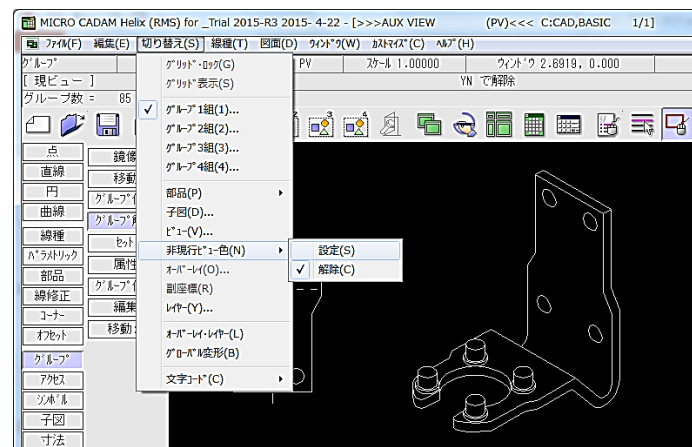
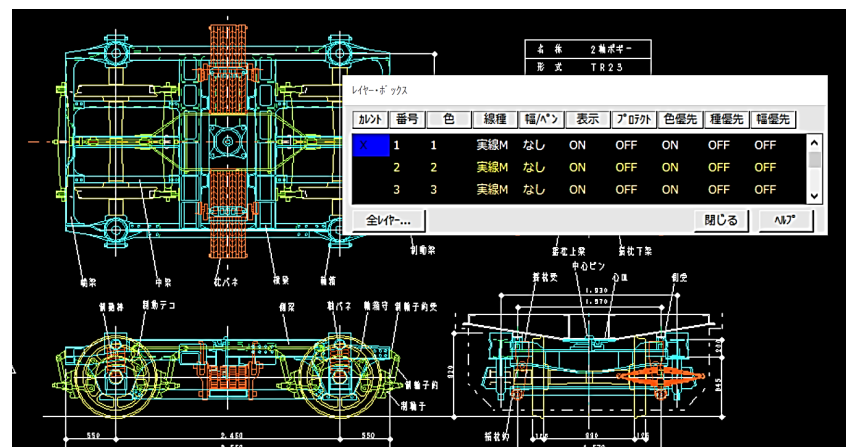
- 1) 構成点を作成しないモードの設定
- 2) アクティブなビュー表示の明示化
- 3) 注記の表示切り替えの設定
- 4) レイヤー・ボックスによるアクティブ・レイヤーの切り替え
- 5) ログオフ前の図面ウィンドウ状態の自動保存
- 6) 子図の表示方法の設定
- 7) ウィンドウ複写
- 8) スマートハイライトの設定

4. 表示関連の便利な機能はありますか？

設計作業中に関係のない点が表示されてしまうことがあります。
こういった点を表示させない方法や、設計作業をするうえで、画面表示を見やすくする便利な機能はありますか？



表示関連の便利な機能として、要素の構成点を作成しないモードや、編集集中のビューをわかりやすくするため、非現行ビューの表示色設定することができます。
ここでは上記2つの設定方法や、その他の表示関連の機能をご紹介します。



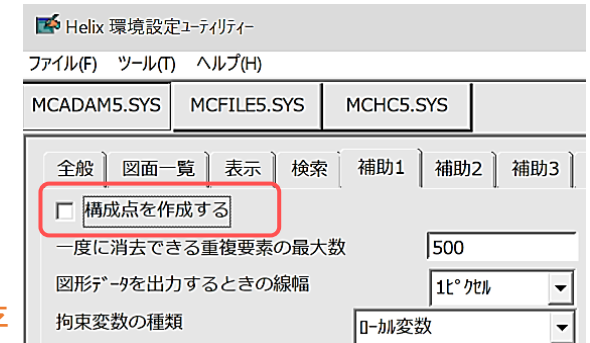
1) 構成点を作成しないモードの設定

コーナー部や線分（有限）、円を作図すると、それぞれ交点、端点、中心点などの構成点を作成されますが、この構成点を作成しないモードを設定することができます。

（設定変更は、環境設定ファイル "MCADAM5.SYS" で行います。）

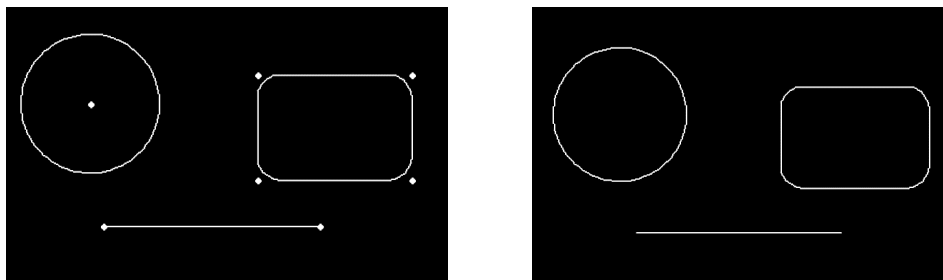
<操作方法-1：環境設定ユーティリティによる設定変更>

1. 環境設定ユーティリティを起動し、[MCADAM5.SYS]の[補助1]シートを開く
2. "□ 構成点を作成する"のチェックを外す（右図参照）
3. メニュー・バー【ファイル】→【保存】で、MCADAM5.SYS ファイルを上書き保存



<操作方法-2：MCADAM5.SYS ファイルを直接エディターで編集する方法>

1. MCADAM フォルダに保存されている"MCADAM5.SYS"ファイルをエディターで開く
2. ファイル内のキーワード"ERSPNT"を"YES"（ERSPNT=YES）にして、"MCADAM5.SYS"ファイルを上書き保存



“構成点を作成する”のチェックを外すと、構成点を作成されないモードになります

<対象となる操作>

- <直線(LINE)>【水平(HORIZ)】【○有限】
- <直線(LINE)>【垂直(VERT)】【○有限】
- <直線(LINE)>【平行(PARAL)】【○有限】
- <直線(LINE)>【直交(NORM)】【○有限】
- <直線(LINE)>【角度付(ANGLE)】【○有限】
- <直線(LINE)>【点 - 点(PT - PT)】【○有限】
- <円(CIRCLE)>【円(CIRCLE)】
- <コーナー(CORNER)>【コーナー(CORNER)】
- <コーナー(CORNER)>【面取(CHAMFER)】

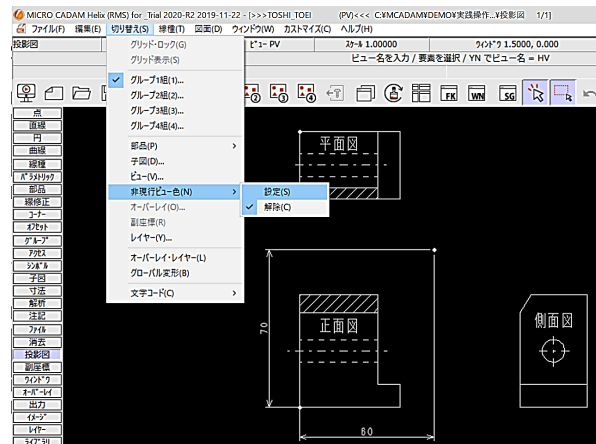
2) アクティブなビュー表示の明示化

作業中でないビュー（非現行ビュー）の表示色を設定できます。

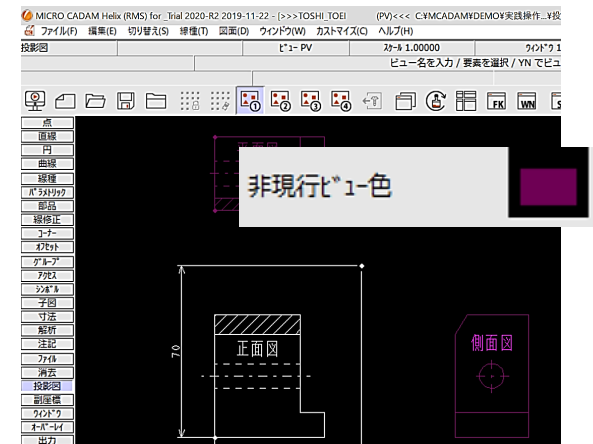
ファンクション<投影図>でビュー設定をして、複数のビューが混在する図面で、高い頻度でビューを切り替える場合、作業中のビューの判別が容易になり、作業効率の向上が期待できます。

<設定方法>

1. メニュー・バー「切り替え」→「非現行ビュー色」→「設定」を選択（非現行ビュー色が有効になります。）
 - ※ 設定を解除する場合は、メニュー・バー「切り替え」→「非現行ビュー色」→「解除」を選択します。
 - ※ 非現行ビュー色はメニュー・バー「線種」→「システム・カラー」で任意の色に指定できます。



メニューバーから「非現行ビュー色」を「設定」に変更します



非現行ビュー色がシステム・カラーで設定した色に変更されます

3) 注記の表示切り替えの設定

図面内の注記要素、寸法要素の数が極端に多いと、文字を表示する際のパフォーマンスに影響がおよぶ場合があります。

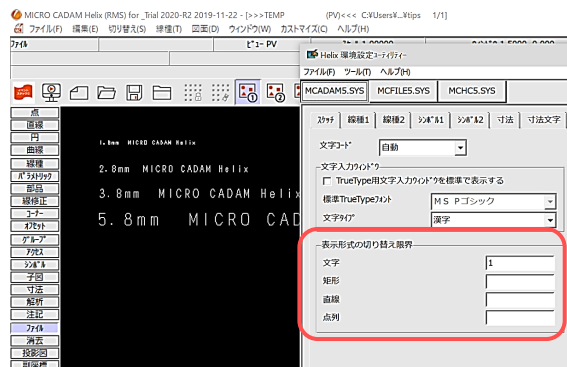
それを避けるために、画面上の表示文字高さを指定して、省略表示（矩形表示）に変更する設定が可能です。

＜設定方法-1：環境設定ユーティリティーによる設定変更＞

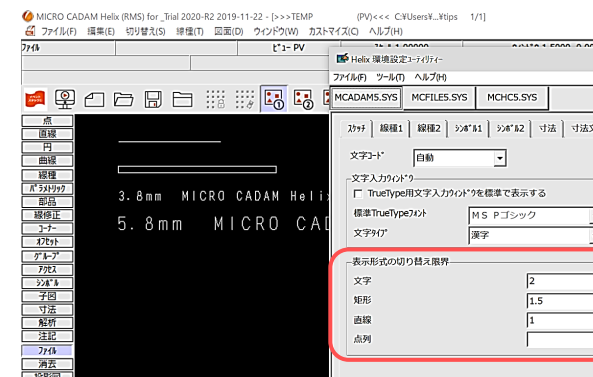
- 1. 環境設定ユーティリティーを起動し、[MCADAM5.SYS]の[注記3]シートを開く
- 2. “表示形式の切り替え限界”で、注記の限界値を入力（下図参照）
- 3. メニュー・バー「ファイル」→「保存」で、MCADAM5.SYS ファイルを上書き保存

＜操作方法-2：MCADAM5.SYS ファイルを直接エディターで編集する方法＞

- 1. MCADAM フォルダに保存されている“MCADAM5.SYS”ファイルをエディターで開く
- 2. ファイル内のキーワード“TXTDSP”で限界値を入力して、“MCADAM5.SYS”ファイルを上書き保存



表示形式の切り替え限界値
「文字 = 1（標準値）」に設定した
場合の表示状態です



表示形式の切り替え限界値
「文字 = 2、矩形 = 1.5、直線 = 1」に
設定した場合の表示状態です

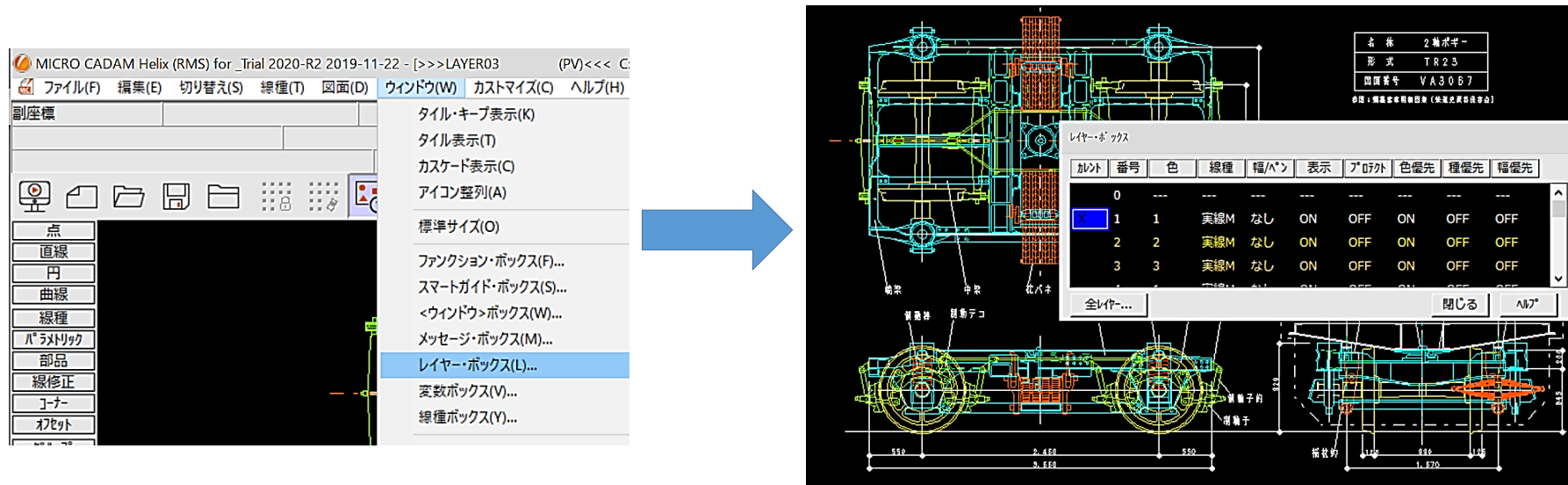
ファンクション<レイヤー>を使用中に、アクティブ・レイヤーの切り替えが頻繁に発生する場合には、都度ファンクション・ボタンを押して切り替えることは操作の連続性を妨げかねません。

そこで、「ウィンドウ」でレイヤー・ボックスを常時表示しておけば、他のファンクションの操作中でもレイヤーの切り替えができ、操作性を向上させることができます。

<設定方法：メニュー・バー「ウィンドウ」での設定>

1. メニュー・バー「ウィンドウ」→「レイヤー・ボックス」にチェック

※「切替」にチェックを入れておけば、アクティブ・レイヤーの切り替えが随時可能になります。



レイヤー・ボックスを表示し、操作しながらレイヤーを切り替えます

5) ログオフ前の図面ウィンドウ状態の自動保存

図面ウィンドウの表示状態を自動的に保存し、作業の継続を行うかどうかを指定します。

2Dモジュールをログオフするとき、状態保存ファイルが作成され、ログオフ時に呼び出されていた図面の図面ウィンドウの状態が保存されます。

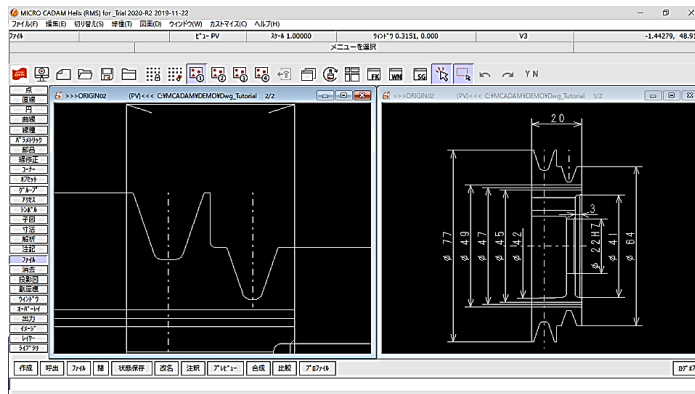
<設定方法-1: 環境設定ユーティリティによる設定>

1. 環境設定ユーティリティを起動し、[MCADAM5.SYS]の[全般]シートを開く
2. "図面ウィンドウ状態を自動保存する" にチェック (右図参照)
3. メニュー・バー「ファイル」→「保存」で、MCADAM5.SYS ファイルを上書き保存

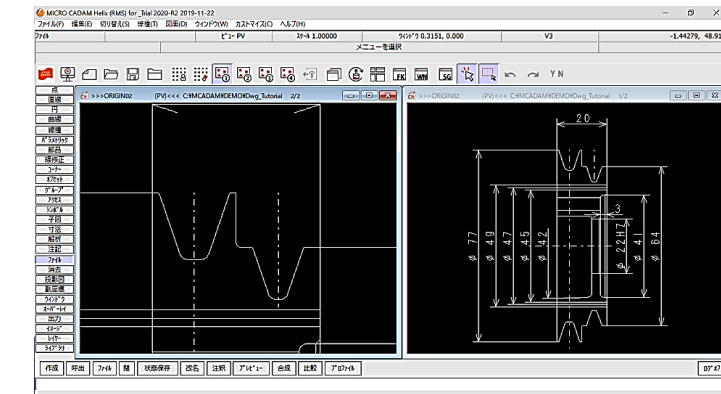
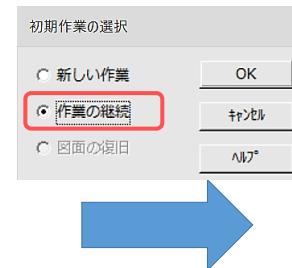


<操作方法-2: MCADAM5.SYS ファイルを直接エディターで編集する方法>

1. MCADAM フォルダに保存されている"MCADAM5.SYS"ファイルのエディターで開く
2. ファイル内のキーワード" AUTRSM"でYESを入力して、"MCADAM5.SYS"ファイルを上書き保存



作図途中で時間の関係でログオフします



再起動時に表示される初期作業の選択ダイアログで「◎作業の継続」を指定することで、前回中断したところから作業を再開することができます

6) 子図の表示方法の設定

子図を表示する際、「現在のサイズで表示」、「要素全体を表示」、「サイズ1で表示」のいずれかの表示状態を設定することが可能です。

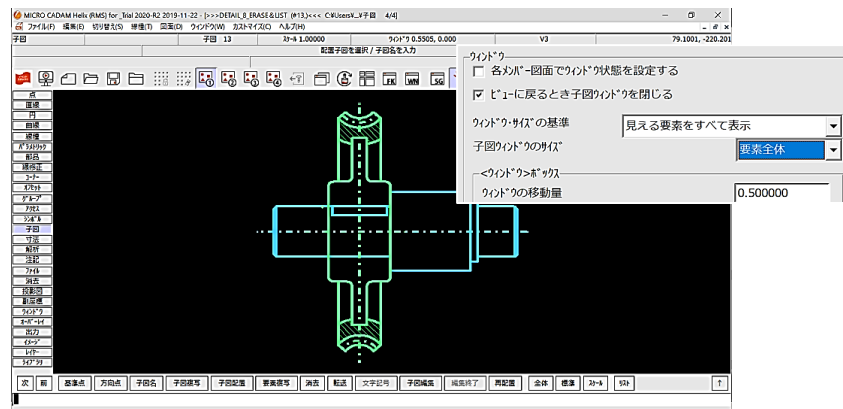
この設定により、メニュー【子図表示】では、設定した表示状態で子図が表示されます。

<設定方法-1：環境設定ユーティリティーによる設定>

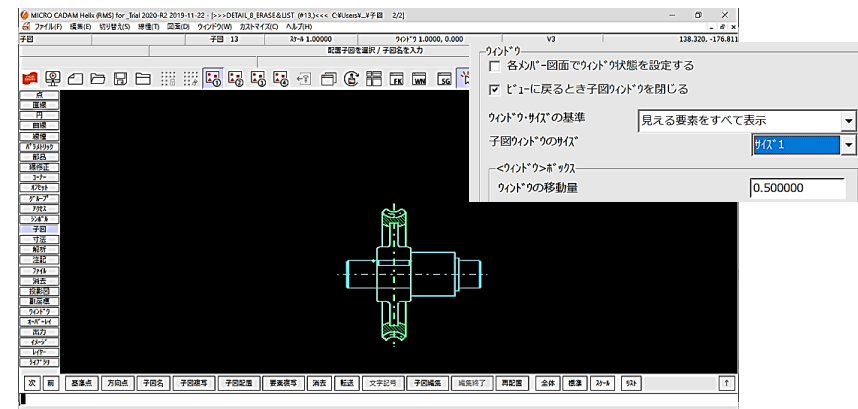
1. 環境設定ユーティリティーを起動し、[MCADAM5.SYS]の[表示]シートを開く
2. "子図ウィンドウのサイズ" で、プルダウンの選択肢から選択（下図参照）
3. メニュー・バー「ファイル」→「保存」で、MCADAM5.SYS ファイルを上書き保存

<操作方法-2：MCADAM5.SYS ファイルを直接エディターで編集する方法>

1. MCADAM フォルダに保存されている"MCADAM5.SYS"ファイルをエディターで開く
2. ファイル内のキーワード " DTLSSR" を入力して、"MCADAM5.SYS"ファイルを上書き保存
※ 「S（現在のサイズ）」、「A（要素全体）」、「1（サイズ1で表示）」



「要素全体」を指定すると、常に画面の中央に要素全体が表示されます



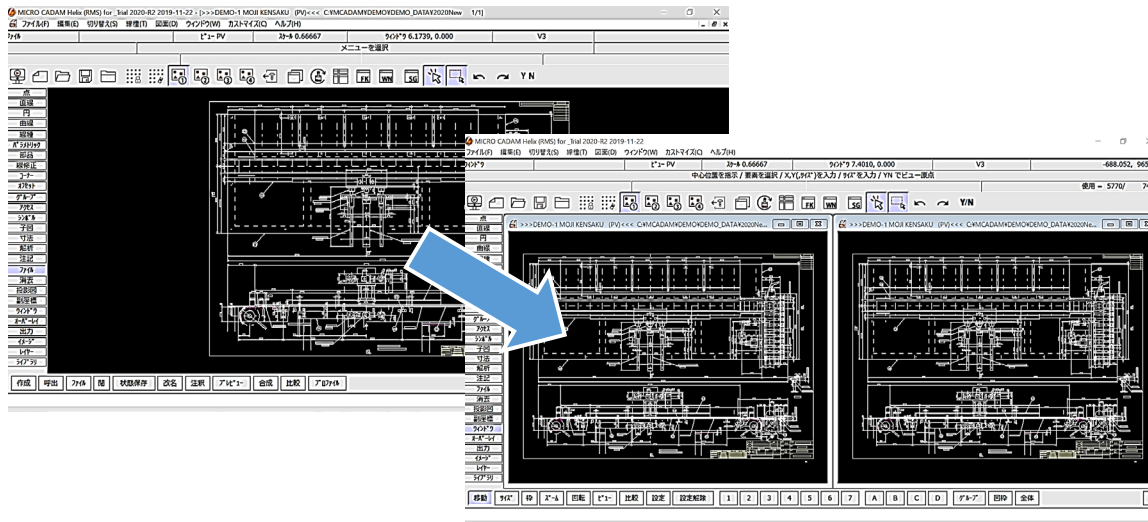
「サイズ1」を指定すると、ウィンドウサイズ「1.0」で表示されます

7) ウィンドウ複写

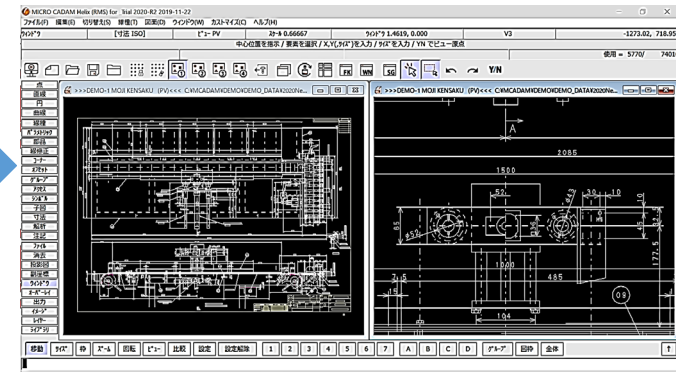
ウィンドウ複写を使うと、1つの図面を複数（最大4つ）の画面に表示することができます。
 例えば、1つの画面に全体図を表示しながら、もう1つの画面には1部分を拡大表示し、詳細部分の設計を行うことが可能です。

＜操作方法＞

1. ウィンドウ複写したい図面を開く
2. メニュー・バー「ウィンドウ」→「タイル表示」または「カスケード表示」を選択
3. メニュー・バー「図面」→「ウィンドウ複写」を選択（別ウィンドウで同じ図面が開きます。）
4. それぞれの図面を拡大・縮小で調整



ウィンドウ複写で1つの図面を複数表示します



それぞれに異なる部分を表示して作業を進めることができます。

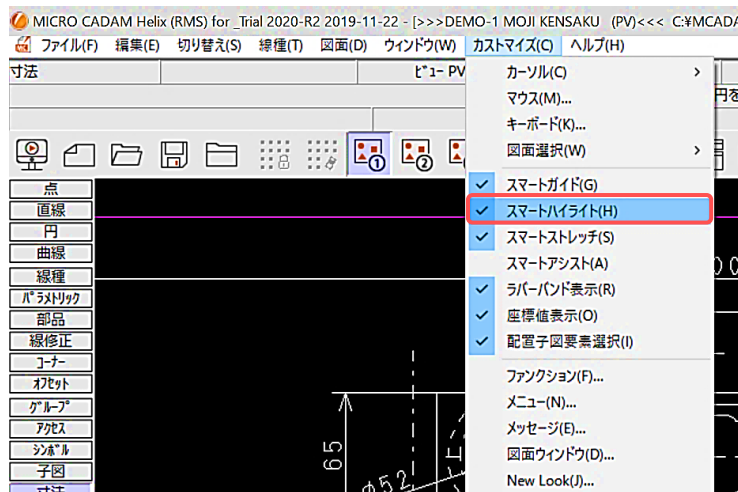
8) スマートハイライトの設定

スマートハイライト機能を使うと、マウスで選択した要素が一目でわかるようになります。
(マウスと重なる要素の色が変わります。)
点や細かい要素を選択する場合に便利な機能です。

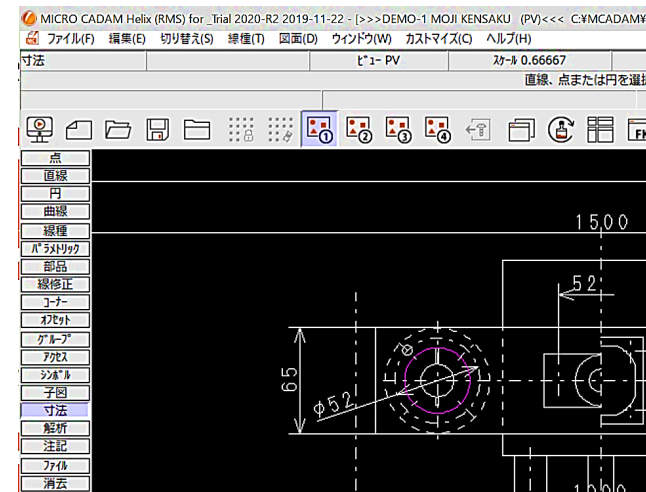
<設定方法>

1. メニュー・バー「カスタマイズ」→「スマートハイライト」をオン

※ 図面上の要素にマウスを重ねると、重なっている要素の色が変わります。



メニュー・バー【カスタマイズ】で
「スマートハイライト」をオンにします



マウスと重なっている要素の色が変わり、
どの要素を選択するか一目でわかります

5. その他お勧めの便利機能は？

- 1) スマートコピー機能 / スマート移動機能
- 2) スマートストレッチ機能
- 3) 異なるリリースのMICRO CADAM図面の互換性の設定
- 4) VBソース・ジェネレーター機能とHD/API

5. その他お勧めの便利機能は

あまり知られていないその他のお勧め機能を教えてください！

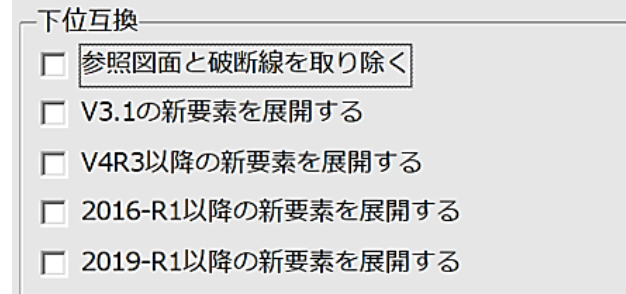
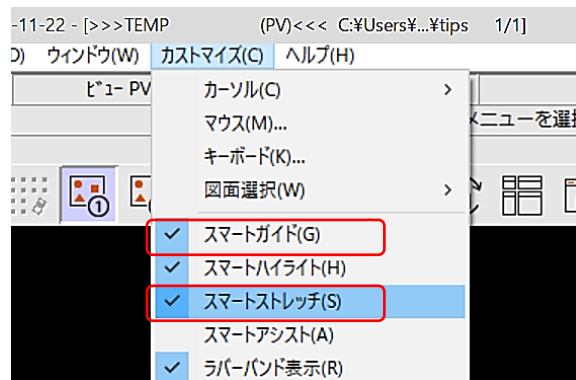


はい。もちろんです！

ここではお勧め機能の一部をご紹介しますが、ここで紹介した機能以外にも MICRO CADAM Helix にはたくさんのお勧め機能があります。

YouTubeなどで紹介していますので、ぜひこまめにチェックしてください。

また、最新機能については、HPに掲載している「Functions Summary」という資料をリリースのたびにアップデートしていますので、こちらも合わせてご活用ください。



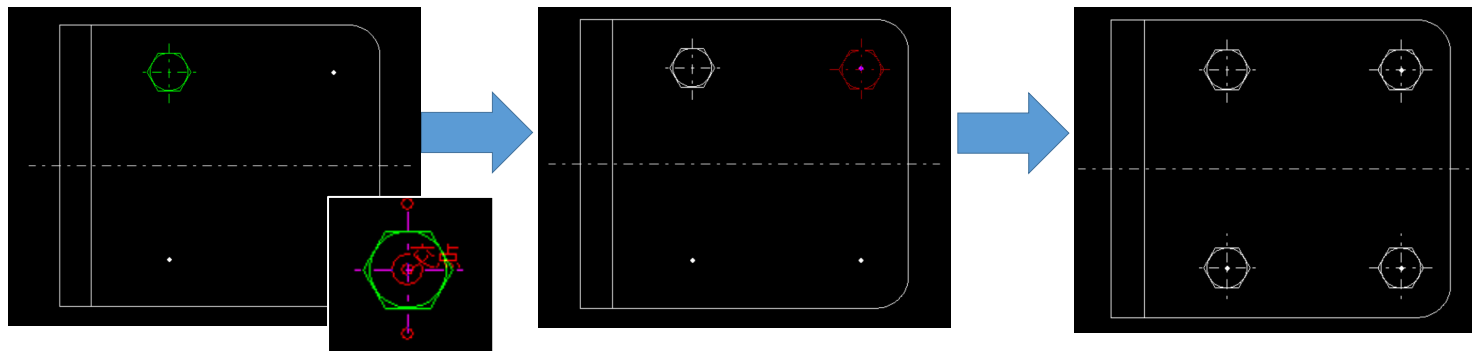
1) スマートコピー機能 / スマート移動機能

事前に機能を割り当てたマウス・ボタンで要素を選択し、より少ない手順で複数の要素を複写または移動できます。スマートコピー（移動）機能を利用すれば、ファンクション<グループ>よりも少ない手順で、要素を複写または移動することができます。この機能は、どのファンクションで操作していても利用できます。

<設定方法：メニュー・バー「カスタマイズ」による設定>

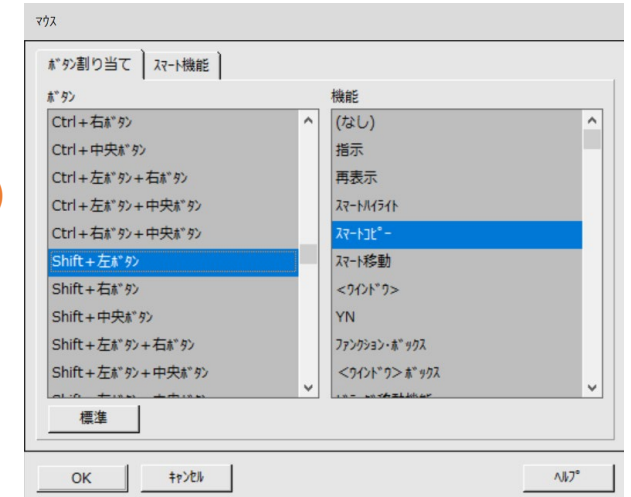
1. メニュー・バー「カスタマイズ」→「マウス」を選択
2. マウス・ボタン（またはキーボードのキーとの組み合わせ）を設定（右図参照）

※ 割り付けたマウス・ボタン（またはキーボードとの組み合わせ）を使用してコピー（移動）したい要素を選択します。



Shift+左ボタンで要素を選択すると、選択した要素がスマートコピー色になります
続けて基準点を指定し、マウスをコピー先にドラッグします

コピーする位置を指定すると、対象要素が複写されます



スマートコピー機能の割り当て
この例ではShift+左ボタンに
割り当てています

YouTubeのMICRO CADAM Helix ページに動画を公開しています！

「Tipsシリーズ：スマートコピー機能」 <https://youtu.be/c3wvy7p0XN8>



2) スマートストレッチ機能

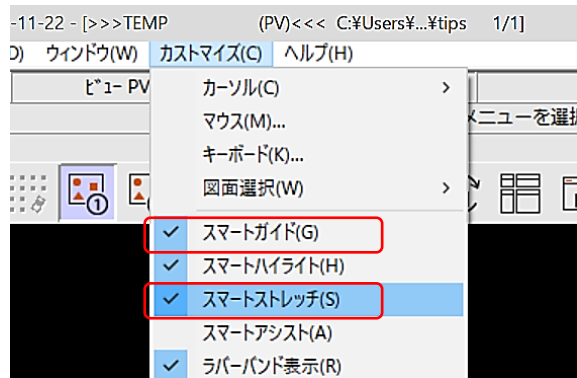
マウスのドラッグ操作で簡単に要素を移動、伸縮できる機能です。

スマートストレッチ機能を利用すれば、ファンクション<グループ>であらかじめストレッチ要素として事前にグループ化することなく、要素を伸縮することができます。また、複合図形の変更では、事前に幾何拘束を定義しておかなくても、要素間の関係性を保持したまま変形することが可能です。

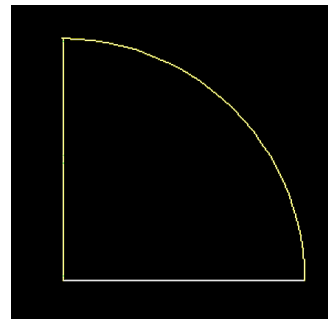
<設定方法：メニュー・バー「カスタマイズ」による設定>

1. メニュー・バー「カスタマイズ」→「スマートガイド」と「スマートストレッチ」にチェック

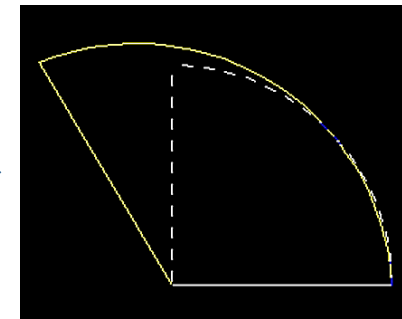
※ 対象の1つ目の要素を選択してマウスを押し続け、スマートガイドで定義点が表示された状態で、マウスを押し続けたまま2つ目の要素上にカーソルを置いて数秒するとスマートストレッチ・モードになります。



スマートガイド、スマートストレッチ
を有効にしておきます



対象要素上でマウスを押し続けていると、要素がスマートストレッチ色（例では黄色）になります



マウスボタンを離し、交点を移動する位置を指定します

YouTubeのMICRO CADAM Helix ページに動画を公開しています！

「Tipsシリーズ：スマートストレッチ機能」 <https://youtu.be/-RLgASvFB74>

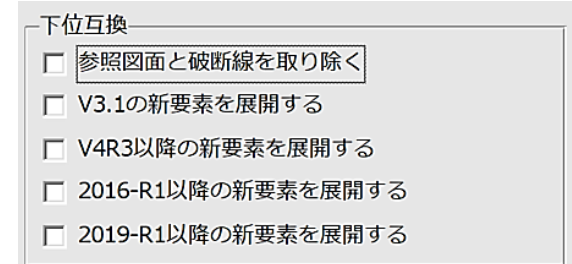


3) 異なるリリースのMICRO CADAM 図面の互換性の設定

複数の異なるリリースのMICRO CADAM Helix を利用する場合でも、常に互換性の確保を保証しています。
環境設定ユーティリティで設定しておけば、図面の互換性が自動的に維持されます。

<設定方法：環境設定ユーティリティによる設定>

1. 環境設定ユーティリティを起動し、[MCADAM5.SYS]の[全般]シートを開く
2. “下位互換”で、相手先のリリースに合わせる項目をチェック（右図参照）
3. メニュー・バー「ファイル」→「保存」で、ファイルを上書き保存



設定項目	振る舞い	標準値
参照図面と破断線を取り除く	図面の型を「単精度V2図面」または「倍精度V2図面」に指定しているときに、図面をファイルする場合、参照図面と破断線2を取り除いて、ファイルします。	OFF
V3.1の新要素を展開する	V3.0以前のモジュールで、V3.1以降に提供された機能によって付加された情報を持つ図面をファイルするとき、V3.0形式でファイルします。	OFF
V4R3以降の新要素を展開する	V4R2以前のバージョンで利用する場合、V4R3以降のバージョンで新規に追加された機能を使って作成した要素を通常の要素に展開します。	OFF
2016-R1以降の新要素を展開する	MC Helix 2016 以降のバージョンで新規に追加されたスケッチ要素を通常の要素に展開します。	OFF
2019-R1以降の新要素を展開する	MC Helix 2019 以降のバージョンで新規に追加された機能を使って作成した要素を通常の要素に展開します。	OFF

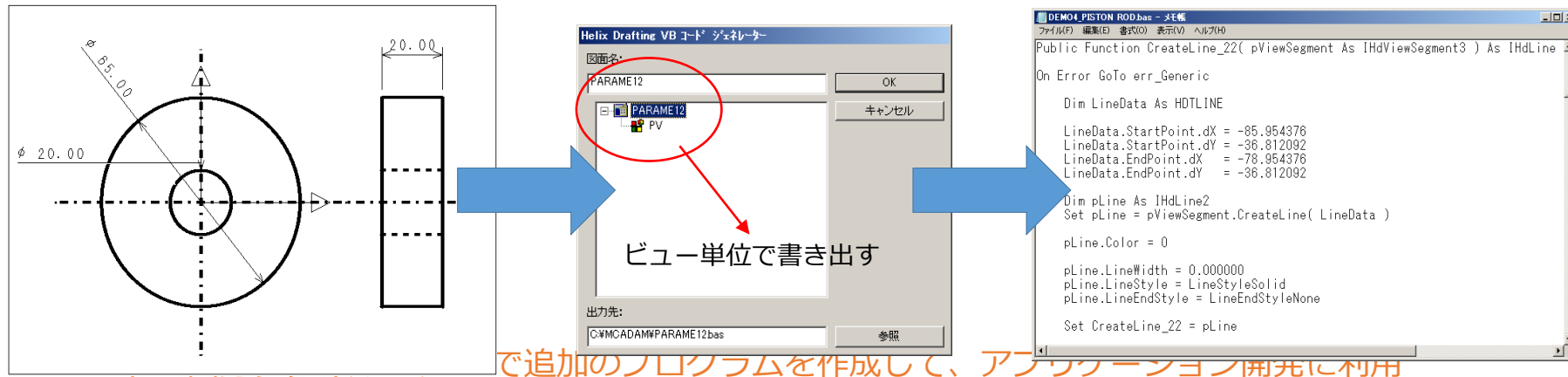
MICRO CADAM Helix では、図面ファイルをVBのソースに書き出す事ができます。

この機能を利用すればVBソースに書き出したものをベースにしてプログラムを組んで、パラメトリック処理や図面の属性の書き出し等、VBベースでアプリケーション開発に利用する事も可能です。

また、標準で付属する開発ツール「HD/API」を利用して、本格的なアプリケーション開発も可能となっています。

<操作方法：VBソースへの書き出し>

1. 対象となる図面を開く
2. メニュー・バー「カスタマイズ」→「VBコード作成」を選択
3. ポップアップ・メニューで、出力先とファイル名を指定し、BASファイルに書き出し





※当資料内の文章・画像・商標等（以下、「データ」）に関する著作権とその他の権利は、弊社または原作者、その他の権利者のものです。企業等が非営利目的で使用する場合、個人的な使用を目的とする場合、その他著作権法により認められている場合を除き、データは弊社、原作者、その他の権利者の許諾なく使用することはできません。

※データ等のご利用またはご利用できなかったことによって生じた損害については、弊社は一切の責任を負わないものとし、いかなる損害も補償をいたしません。

※掲載されている内容は2020年6月時点のものです。内容は、事前の予告なしに変更することがあります。

MICRO CADAM、MICRO CADAM Helix は、株式会社CAD SOLUTIONSの商標です。
他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。